

令和3年度

京都市子どもの読書活動優秀実践団体（者）表彰 被表彰団体（者）一覧

（敬称略・順不同）

【市長賞】 1個人 2団体

○後藤 由美子

「わたぼうし文庫」（地域・家庭文庫）を長年にわたり主宰し、地域の子どもたちに本に触れあう機会を提供されています。また、京都市子ども文庫連絡会や京都家庭文庫地域文庫連絡会の代表を務められ、ブックリスト「本のもり」の改訂をはじめ京都市図書館と連携した取組を推進されるだけでなく、地域の小学校や保健センターでも読み聞かせを行うなど、子どもの読書活動推進に御尽力いただいています。

○学校法人そのえだ学園 其枝幼稚園

開園以来、園と保護者の熱い思いから開設した「其枝なかよし文庫」を中心に、園児や保護者だけでなく、地域の小学生などへの図書の貸出しや保護者による読み聞かせ、絵本作家の生の声を聞く機会の提供など、地域活動にもつながる幅広い取組を展開されています。また、子どもたちに「物語」をより分かりやすく伝える手法も取り入れるなど、様々な手法を凝らして子どもたちに絵本の楽しさを伝える取組を実践されています。

○京都市立朱雀第七小学校

国語科を校内研究の中核に据え、学校図書館を「読書センター」、「学習・情報センター」として積極的に活用しています。特に、教科書と関連させながら様々な本を読むことを重視しており、読書量の増加のみならず、子どもたちが新たな視点で本を主体的に選ぶ力を育成しています。また、朝読書の習慣化や学校司書による学校図書館でのテーマ展示・本の紹介など、学校全体で子どもの読書活動の充実に取り組んでいます。

【教 育 長 賞】 9団体

○正親小学校 図書ボランティア

京都市立正親小学校において、常に子どもたちの学びを大切にし、一人でも多くの子どもが本を好きになれるようにという思いの下、図書の貸出・返却、読み聞かせ、掲示物の作成やブックカバーを活用した手作りバックのプレゼントなど、豊かな読書活動の基盤となる取組を進めておられます。コロナ禍においても常に学校と連携を図り、どうすれば安全に本が読めるかを検討しながら、子どもたちの気持ちや学校の様子に十分に配慮して活動を継続されています。

○京都市立松陽小学校「絵本をたのしむ会」

京都市立松陽小学校において、「本が好きな子どもを育てよう」をテーマに長年にわたり取組を進めておられます。毎月1回実施される低学年や育成学級を対象とした読み聞かせでは様々な種類の本の紹介もされ、読書が苦手な子どもたちも自ら本を手にする機会が増えています。また、コロナ禍においても保護者におすすめの絵本を紹介するお便り「ぴこ通信」を定期的に発行されるなど、本好きの子どもたちの育成に御協力いただいています。

○伏見区役所保健福祉センター子どもはぐくみ室 絵本ふれあいボランティア

伏見区役所保健福祉センターでの8か月健康診査の際に、来所した方へ絵本の読み聞かせをしたり、絵本と絵本用手提げ袋等がセットになった「読み聞かせスタートパック」を贈呈する「京都版ブックスタート事業」において絵本の紹介を行うなど、絵本を通じて親子の絆を深める取組に御協力いただいています。

○深草支所保健福祉センター子どもはぐくみ室 絵本ふれあいボランティア

深草支所保健福祉センターでの8か月健康診査の際に、来所した方へ絵本の読み聞かせをしたり、絵本と絵本用手提げ袋等がセットになった「読み聞かせスタートパック」を贈呈する「京都版ブックスタート事業」において絵本の紹介を行うなど、絵本を通じて親子の絆を深める取組に御協力いただいています。

○醍醐支所保健福祉センター子どもはぐくみ室 絵本ふれあいボランティア

醍醐支所保健福祉センターでの8か月健康診査の際に、来所した方へ絵本の読み聞かせをしたり、絵本と絵本用手提げ袋等がセットになった「読み聞かせスタートパック」を贈呈する「京都版ブックスタート事業」において絵本の紹介を行うなど、絵本を通じて親子の絆を深める取組に御協力いただいています。

○学校法人くろたに学園 くろたに幼稚園

開園以来、絵本は子どもにとっても大人にとっても心を豊かにするものであるという思いの下、日常の保育の中で行う絵本の読み聞かせに加え、園児に毎月1冊の月の絵本とお誕生日の絵本をプレゼントし、家庭での読書習慣の定着に取り組んでおられます。また、「絵本の部屋」を設置し園児や未就園児向けに読み聞かせや貸出を行うなど、子どもたちが本の魅力に触れ、主体的に読書活動を行う取組を進めておられます。

○京都市立伏見南浜幼稚園

「多様性」を認め合う風土を育てるための重要な活動として読書を位置づけ、日常から「多様性」を広げるという観点で読み聞かせの絵本を選んだり、絵本を聞く・見るのみならず、声に出したり体で表現しながら様々な形で楽しむことができるよう、工夫をしています。また、地域の子育て支援センターとして実施する教育相談においても、未就園児の保護者と子どもたちに積極的に絵本の貸出やレファレンスを行っています。

○京都市立北野中学校

学校司書と司書教諭を中心に、バランスの良い蔵書整備や各種特設コーナー設置・学年フロアへの特別設置など、生徒の興味関心を引きながら「手を伸ばせば本がある環境」を構築しています。また、学校司書が授業に参加したり、多くの教科において様々な手法を凝らして図書館を活用した授業実践を行うなど、全校体制で学校図書館の「読書センター」、「学習・情報センター」としての機能を充実させる取組を推進しています。

○京都市立西総合支援学校

「コロナ禍の今こそ子どもたちの読書機会を増やしたい」という思いの下、図書館主任と学校司書を中心に読書活動を推進しています。感染防止のため給食の配膳を教職員全員で行う間、学校司書が絵本を詰めた「ウーバーほーん」というリュックを背負って教室を回り、児童生徒の生活年齢に合った本の読み聞かせをしたり、読書週間中には図書委員会の生徒が自ら作成した読み聞かせ動画を校内テレビで放映するなど新しい取組も実施し、貸出冊数もコロナ禍前から倍増しています。